

style

5

紡がれるつながりと 言葉の力



お気に入りの本を持って、詩人の上田假奈代さんとまち歩き (2009年4月)

本や書棚は人の心を映す鏡にたとえられることがあります。上町台地に生き会っているさまざまな人たちが、お気に入りの場所で読みたい本を持ち寄って一つの書棚をつくったとしたら、そこにはどんな風景が映し出されることでしょうか。U-CoRoプロジェクトを介して縁を持った52名が、とっておきの“本”と“場所”を持ち寄りました。上町台地の心の風景が姿を現します⁽¹⁴⁾。

そして、U-CoRoプロジェクトの5年間を締めくくった、上町台地百人一句と人絵巻。「上町台地の明日を想って、自由な一句をお寄せください」という呼びかけに、寄せられた一句一句を、いにしえ人の歌や句とともに味わいます。人から人へ、続いていくつながりの物語とともに響きあいます⁽¹⁵⁾。

⁽¹⁴⁾ ウィンドウ・エキジビション07「春の日 上町台地で読みたい本」(2009年1月26日～5月22日)、⁽¹⁵⁾ ウィンドウ・エキジビション15「U-CoRo人絵巻～上町台地百人一句」(2011年11月14日～2012年3月30日)をもとに構成。

Style 5 紡がれるつながりと言葉の力

52人の大切な一冊とお気に入りの場所

「春の日に、上町台地境界で読みたい本はどんな一冊でしょう?」、「その本を持って訪れたい上町台地の場所はどこでしょう?」。そんな問いかけに、U-CoRoプロジェクトを介して縁を持った52名の方々が、とっておきの“本”と“場所”を持ち寄りました。

一冊の本は、時に人の心を映し出します。上町台地で生まれ、育ち、学び、働き、暮らす、一人ひとりの人生の折節、成長の過程に、大切な本との出会いやまちとの交わりがあります。

まちを家に見立てて、同じ時代、同じ一つの空の下で、上町台地に生き会っているさまざまな人たちが、お気に入りの場所で読みたい本を持ち寄って書棚をつくりました。そこにはどんなつながりの風景が映し出されているでしょうか。

それぞれの“本”でつながる、上町台地の心の地図の向こうに、生き生きと血の通う上町台地がその姿を現します。

読みたい本〇〇の数字は、P133のマップ内の読みたい場所〇〇のポイントを示しています。



天王寺公園

読みたい場所

大阪城公園のおもいで森
中央区大阪城

1

「そっと耳を澄ませば」と『鳥が教えてくれた空』三宮麻由子(集英社文庫)

岡本真澄さん
大阪府職員

■『そっと耳を澄ませば』に収録されている「帰雁の隊」。シベリアに渡り鳥が一斉に飛び立つ、その瞬間を臨場感豊かに描いた文章である。三宮麻由子さんは、目が見えない。後日、そのことを知った。大阪城公園の内濠・外濠には毎年たくさんの渡り鳥がやってくる。おもいで森や京橋口を少し入った木立の中にあるベンチに腰かけ、音や匂い、皮膚、空間の感覚を研ぎ澄まして、自然の中にしばし身を浸して自分の感受性を試してみる。

読みたい場所

大阪城
中央区大阪城

2

『一夜官女』司馬遼太郎(中公文庫)

■「一夜官女」は、野里住吉神社(西淀川区)の一夜官女祭の人身御供(ひとみごう)伝承をベースにした短編です。設定は関ヶ原合戦後の大坂。実際の祭りとは異なる描写も多いのですが、一夜官女が住吉明神の一夜妻として描かれているのは、民俗学的にも面白い解釈です。大阪城もこの物語の舞台ですが、その石垣の上から淀川方面を望むと、主人公たちの逢瀬と別れ、喜び、悲しみの声を、向かい風が運んで来てくれるような気がします。

澤井浩一さん
大阪歴史博物館学芸員

読みたい場所

大阪城天守閣 または OMMの最上階、ヒョール大阪大手前タワー展望室
中央区大阪城 ほか

3

吉見孝信さん
(株)鳥町米穀店

「古代史の中の姫君たち」(小説)吾田嬢 金谷信之 web上に掲載 http://www.k4.dion.ne.jp/~nobk/hime/otahime.htm

■記紀の崇神天皇の条に出てくる埴安彦の反乱事件を小説の形で描いたもの。ヒロインが女性であり、古代大阪平野は海であり、大和との戦いの中に古代の地景が手にとるが如く表現されている。

読みたい場所

大阪城公園
中央区大阪城

4

「ルピナスさん」バーバラ・クーニー(ほるぷ出版)

■ルピナスさんという女性が、世界中进行して、海辺の小さな家に住み、おじいさんとの3つめの約束「世の中を美しくする」ための素敵なことを思いつく、という絵本です。都会の真ん中で、絵本を広げて「世の中を美しくする」ことについて考えてみるのもいいかな。と思ったのでこの本を選びました。絵も美しく春にぴったりです。

田村 彩さん
会社員

読みたい場所

大阪城公園
大阪城外堀周辺のベンチ 中央区大阪城

5

「真田太平記」池波正太郎(新潮文庫)

小谷真功さん
高津宮宮司

■大坂冬の陣・夏の陣で天下に一躍名を馳せ、華々しく散っていった真田幸村。今なお、真田十勇士とともに人気があります。子どもの頃、漫画で夢中になった猿飛佐助を思い浮かべ、手にしたのがこの本です。この時代小説には数々の合戦があり、大坂城の石垣を眼前に読みふけっていると戦場の雄叫びや息づかいが聞こえてきそうです。そして、真田一族をはじめ戦国の世の人たちの絶えず「死」と「生」の両方を見つめた生き様に思いを馳せることができます。

読みたい場所

大阪城天守閣を仰ぎ見る
大阪城公園の森の中
中央区大阪城

7

「大阪城公園駅」(『ある運命について』のなかから)司馬遼太郎(中公文庫)

竹村伍郎さん
NPO法人まち・すまいづくり副理事長・情報誌「うえまち」編集局長

■日頃、上町台地で生活していて、坂を上から見ると、JR大阪城公園駅で下車し、緑の上の天守閣を仰ぎ見たとき、上町台地の先端を意識し、いまさらながら、その存在に畏敬を感じる。さらに駅の改札口の上の陶板に掲げられてあるこの文を読み、上から坂を見るがごとくの自分の過去を振り返るのではなく、残り少ない人生を仰ぎ見て行く末におもいをはせることができる契機を与えてもらえることに感謝する次第です。「都市の場合、古くからそこにいたことは、少しも自慢にならない。この都市で、どういう志をとげようとするかが、課題なのである。」(文中より)

読みたい場所

大阪城公園の中のベンチ
中央区大阪城

9

「森の少年」M.ドリス(新潮文庫)

S.Y.さん
中学2年生

■この本に出てくる少年は、自分の将来に不安を覚えて、一人森へ入り、さまざまな出会いをします。大阪城にも森とはいきませんがたくさんの木々が背を伸ばしていて、都会育ちの私には、少年と同じ心境にさせてくれます。本のなかの描写に出てくる森の木漏れ日なんかも、少し陽の当たったベンチに座していると十分に気分が味わえます。

読みたい場所

大阪城公園
中央区大阪城

11

「ムーミンのたからもの」トーベ・ヤンソン(講談社)

藤原沙樹さん
ゲストハウス&カフェバー由苑

■自分の宝物って何だろう。ムーミンはそれを探す旅に出る。でも旅の先々で見つける宝物は仲間の為のものばかり。自分の宝物が見つからないと悲しむムーミンに母が言います。“あなたの宝物は皆のことを想えるそのころよ”と。大阪城公園で、母が小さい私に聞かせてくれたたくさんの絵本達。私もたくさんの子供達に同じ場所でこういう大切な物語を聞かせてあげたいな。

読みたい場所

大阪城 梅林 堀の上あたり
または、高津公園、真田山公園
中央区大阪城 ほか

6

「真田太平記」池波正太郎(新潮文庫)

桑原年弘さん
僧侶 建築設計

■ビールを片手に本を読むときに心地よい場所です。それぞれに梅や桜がきれいです。ただし、花見の人が多いときは、はずすこと。鳩がよってくるので、パンくずを持参すると、お友達になってくれます。

読みたい場所

大阪城公園
中央区大阪城

8

「鳥が教えてくれた空」三宮麻由子(NHK出版)

元山裕康さん
トリニミスト

■意識の一部で大阪城公園を飛び交う鳥の声を耳にしながら、木陰のベンチに座り、この本を開きたい。この珠玉のエッセイ集は、部屋椅子に座して読むより、自然の中で読む方が、素直に心に入ってくるだろうから。

読みたい場所

大阪城公園
中央区大阪城

10

「十五少年漂流記」ヴェルヌ(新潮社ほか)

鈴木伸廣さん
神職

■少年時代に初めて自分で買った本を、子どもと一緒に多くの緑の中、読んであげたい。また、自分達も少年時代に友人と大阪城公園で探検ごっこや木登りをしたので、その場所で再度子どもと共に自らも幼少時代に戻りたい。

読みたい場所

大阪城公園
中央区大阪城

12

月刊「大阪人」(財)大阪市都市工学情報センター

読みたい場所 NHK下のカフェ
中央区大手前4丁目

■毎月欠かさず読んでいます。歴史などのマニアックな記事だけでなく、文化(特に、お店や人、商品)にフォーチャーした切り口が面白い。この本を読むのにベストなスポットがNHKと歴史博物館の間にあるカフェです。天井が高く適度な開放感があり、気持ちよく本が読めます。読みながら気になるところがあれば、すぐ隣にある歴史博物館へ直行。大阪の歴史の気になることも調べることができるのもお気に入りの理由です！

読みたい場所

難波宮跡公園

中央区法内坂1丁目

13

「アースダイバー」
中沢新一
(講談社)

山内美陽子さん

造園プランナー・谷町空庭店主

東京のそれぞれの場所に
潜む地霊。縄文時代の地形
のなごり。文化人類学者の中
沢新一の描く東京の世界はまさに縄文時代へ
とつながる、アースダイビング。
この本は東京をフィールドとしているけれど、
大阪でも、今私たちが見ているものも、今の時
代のものでしかない。大きくひろがるイマジネー
ション。地面を掘ってみたい！縄文ではない
が、大きな歴史が眠る難波宮で、春の日、昼
寝しながらのんびりわくわくの日を過ごしたい。

アースダイバー

中沢新一

東京創刊社

空がひろく、開放感がある
草のにおいがして、
そこにいることが楽しい場所

読みたい場所

難波宮跡公園

中央区法内坂1丁目

14

「アースダイバー」
中沢新一
(講談社)

上田假奈代さん

詩人

黄色い装丁のこの詩集はひなたが
似合う。草のにおい、そよぐ風にまじっ
て、こどもの声や犬の鳴き声がする。
出勤する人もいれば、家に帰る人、た
だそこにいる人、いろんな人がいて、
この時間が尊いと思えるから。そんな
とき「みみをすます」。

みみをすます

谷川俊太郎

(福音館書店)

読みたい場所

難波宮跡公園

宮殿跡の上に座って
中央区法内坂1丁目

15

『ローマ人の物語』
塩野七生
(新潮社)

田中雅人さん

会社員

「ローマ人の物語」は、ロー
マ帝国の栄華と衰退の物語で
あり、歴代の英雄の勇気と悲
哀を味わうことができる一冊（シリーズ）です。
難波宮の大極殿跡の上に立つと、都心では比
類を見ない広大な草原が眼前に広がります。し
ばらく佇むと、かつての王朝の栄枯盛衰の日々
が思い起こされます。物語の場所は違いますが、
難波宮跡で『ローマ人の物語』を読めば、カエ
サルやアウレリウスが、まさに目の前に出現して
きそうな気がして、ワクワクしますよ。

ローマ人の物語

塩野七生

(新潮社)

読みたい場所

難波宮跡公園

中央区法内坂1丁目

16

『100万回生きたねこ』
佐野洋子
(講談社)

山瀬真太郎さん

親子
会社員

100万回生きたねこ

佐野洋子

(講談社)

100万回生きた猫が最後に生き返らなかつたのは、土に埋めなかったからかな。かわい
そうだな。(子どもの感想)
子どものころに親に読んでもらっていた本を、
私がか子どもに読ませる番になり、あらためて
読んでみると、本の内容を理解していなかったことに気がきました。
いま5歳の子どもが、この内容を理解する日はいつになるのかな、という
思いと、私がそうであったように、子どもこの主人公の猫のように大事な
人に出会うのを楽しみにしたい、という思いから近所の中でも、歴史を感じ
る難波宮跡を読みたい場所を選びました。(父の感想)

100万回生きたねこ

佐野洋子

(講談社)

読みたい場所

銅座公園周辺

中央区内久宝寺町2丁目

17

司馬遼太郎の本

岸本智嘉子さん

会社員

歴史が舞台の本を読みながら、自分
がいる土地の昔を想像しながら読める
から。司馬遼太郎は史実と想像がちょ
うどいいバランスで、読んでいて想像
が膨らみそう。
また、銅座公園周辺は緑があり、静かで、
なおかつ一息つけるカフェなどがあって、
本を読むには居心地がよさそう。

大関記

司馬遼太郎

(新潮社)

読みたい場所

難波宮跡公園または
玉造稻荷神社

中央区玉造2丁目

18

『なにわ大阪の伝統野菜』
なにわ特産物食文化研究会
(農文協)

馬庭 達さん

会社員

2007年より京都から上本町に引越してきました。周りの方々の勧めもあり、2008年からペラン
ダで野菜の栽培に挑戦。玉造稲荷神社様から
種を分けていただいて挑戦した、玉造黒門越瓜
の発芽、収穫の際の感動は、今まで体験したことがないものでした。
そのほかナス・トマト・ピーマン・キュウリ等は成功し、今は天王寺蕪・大
根・白菜・玉葱のお世話に励んでおります。有期限でこの界限に住ませ
ていただく予定ですが、上町台地を満喫したく、春の日に次に挑戦する
野菜を考えながら「日向ぼっこ」、そんな気持ちです。

なにわ大阪の伝統野菜

なにわ特産物食文化研究会

(農文協)

読みたい場所

酒肴酒

中央区法内坂1丁目

19

『酒肴酒』
吉田健一
(光文社文庫)

小辻昌平さん

会社員・直木三十五記念館事務局長

私の特技は歩きながら本
を読めることである。散歩の
似合う町に何か一冊持っ
て出かけるなら随筆だろう。吉田健一は吉田茂
の息子で英文学者、ダンディを地で行く紳士
である。近代化途上の戦後の日本で吉田健一
はいち早く個人主義を貫き、自分の目標をも
って人生を歩んだ人ではないだろうか。彼の
多くの著作の中でも食べ物の話は他愛なく
罪がないのでいい。決して現在の変な主義
主張のあるグルメ本でないところがいいのだ。

酒肴酒

吉田健一

(光文社文庫)

読みたい場所

玉造公園

その南側にある石段に座って
中央区玉造2丁目

20

『20世紀少年』(全22巻)
浦沢直樹
(小学館ビッグコミックス)

長谷川寧子さん

玉造黒門越瓜出隊代表

20世紀少年

浦沢直樹

(小学館ビッグコミックス)

昨年(2008年)から仲の良い友だちと一緒に
にはまって、全巻アツと言う間に読み切りま
した。次から次へと謎が深まるストーリー
はジェット・コースターのように一気に読め
ます。仕事などで疲れたときに、秘密基地
を作って遊んだ子どもの頃を思い出しながら、
近くの馴染みの公園で春の陽射しを
浴びながら、ほっこりと読んでみたいです。

20世紀少年

浦沢直樹

(小学館ビッグコミックス)

読みたい場所

結

まちづくりの会で集まった喫茶店
ミックスジュースを飲みながら
中央区上町1丁目

21

『きょうの猫村さん』
1〜3巻
ほしよこ
(マガジンハウス)

塩田洋子さん

教員

主人公の「猫村ねこ」が持つほのぼの
としたキャラクターにとにかく癒されます。
また、家政婦が猫という非現実的な設定
にもかかわらず、妙にしくりくるのが不
思議です。鉛筆で描いた下書きのような
絵もかわいくて気に入っています。読む
たびに猫村さんの得意料理「ネコムライ
ス」がおいしそうで、食べてみたくなります。

きょうの猫村さん

ほしよこ

(マガジンハウス)

読みたい場所

サロンdeありす

縁側でお茶を飲みながら
中央区谷町6丁目

23

『大阪新・長屋暮らし
のすずめ』
橋爪紳也 編
(創元社)

酒向八智代さん

町家再生複合施設「燈」内
「スタン」店主

からぼり「練」2階

サロndeありす

中央区谷町6丁目

私の好きな場所は空堀です。空堀と
言えば「長屋」なので、この本を選びま
した。サロndeありすの縁側は、ホッ
と落ち着ける場所です。いかにも「空
堀」という空間で「空堀」について書か
れている本を読むなんて、とても贅
沢な時間の過ごし方だなと思います。

大阪新・長屋暮らし
のすずめ

橋爪紳也 編

(創元社)

読みたい場所

直木三十五記念館

畳の上で寝そべって
中央区谷町6丁目

25

『黄門廻国記』
直木三十五
(春陽文庫)

北川 央さん

大阪城天守閣研究副主幹

推理小説が大好きな私が、小学5年
のときに初めて買った文庫本が春陽文
庫の『三角館の恐怖』(江戸川乱歩著)。
ちょうどその頃歴史も好きになり、司馬
遼太郎の作品などを読むようになりました。
そんな春陽文庫と歴史(時代)小説の流れの結節点で出会ったのが
『黄門廻国記』で、当時は著者の直木が大阪の人であることも、「直木賞」
にその名を残す人であることも知らずに読みましたが、今度は直木ゆかり
の空堀で、ゆっくりと「場」の雰囲気に入りながら読んでみたいです。

黄門廻国記

直木三十五

(春陽文庫)

読みたい場所

大阪 大阪

戦前から建っている
店の奥の間(畳の上)

中央区谷町6丁目

27

歴史群像シリーズ
「城と城下町」2
「大坂・大阪」
渡辺武雄 著 (学研)

岡田孝輔さん

鯉節・丸と商店店主

つい最近、本屋で見つ
けた本ですが、昔の写真や古
地図がいっぱい載っていて、
大阪はもとより空堀あたりの歴史も振り返るこ
とができます。あんまり本は読まんのやけれど、
こういう冊子は肩も凝らずに楽しく読めます。
読む場所は、もちろん自分の家でもあったお
店が一番ええかな。戦前から建っている店で
すが修築して居心地がまた良くなって、畳の
上でゴロゴロしながら近所の歴史に思いを馳
せるのがええなあ。

大阪 大阪

渡辺武雄 著

(学研)

読みたい場所

「練」と「結」の喫茶店

中央区谷町6丁目・上町1丁目

22

『一瞬の風になれ』
1〜3巻
佐藤多佳子
(講談社)

菅 磨志保さん

大阪大学コミュニケーション
デザイン・センター 特任講師

長屋を再生された2つの空間は、
とても落ち着けるので、読書といわず、
時間ができたら一人であらりと訪れ、
過ごしたい場所です(実は、私は上町
1年生ですので、読書スペースとして
使えるスポットをあまり知りません。今
回、皆さんから素敵な場所を教えてい
ただけることを楽しみにしています)。

一瞬の風になれ

佐藤多佳子

(講談社)

読みたい場所

空堀界限

中央区谷町6丁目

24

『はじめてのおつかい』
(こどものとも傑作集(56))
筒井頼子さく・林明子え
(福音館書店)

岡本泰子さん

大阪市立中央図書館司書

5歳になったみいちゃんは、ママから頼まれた
赤ちゃんの牛乳を買いに、はじめてのおつかい
に出かけます。かけだして、すぐにこけてしまっ
た坂の道。みちばたで気持ちよさそうに寝いて
くるねこ。みいちゃんの忘れたおつりをもって、追
いかけてきてくれたお店のおばさん。すべてが、やさしい色あいの絵本です。
みいちゃんを見守っている、どことなくつかしい町なみが、空堀の界限の
雰囲気と重なります。
春の一日、空堀のあたりをゆっくりと散歩してみませんか?
坂の道で、牛乳を大事にかかえたみいちゃんと、すれちがうかもしれませんね。

はじめてのおつかい

筒井頼子さく・林明子え

(福音館書店)

読みたい場所

桃園公園

中央区谷町6丁目

26

『アルケミスト
夢を旅した少年』
パツロ・コエーリョ
(地湧社・角川文庫)

関川 華さん

京都大学大学院工学研究科
都市環境工学専攻博士課程

人生の岐路における
意思決定の仕方を物語を
通して教えてくれる一冊
です。難点は、文章が哲学的?で、読む
たびに考えさせられます。視界に広がる光
景によっても違うものが見えてくる、不思議
な文章です。時間によって入れかわり立ち
かわり、登場人物が現れる桃園公園は、
この本の楽しみを最大限に膨らませてくれ
る場所だと思いました。

アルケミスト
夢を旅した少年

パツロ・コエーリョ

(地湧社・角川文庫)

読みたい場所

空堀商店街

中央区谷町6丁目

28

『大阪学』続・大阪学
大谷晃一
(新潮社)

徳力修司さん

自営業

「大阪学」では、大阪人
(とくに「浪速人」)の機微
について繊細に描かれて
いて、生まれも育ちも「浪速」の私にとって、
共感、苦笑する部分が多く、おもしろい。
空堀商店街には、戦前から商いを続ける
商店主が多く、「浪速」の香りを色濃く残
しており、本をポケットに忍ばせ、その
方々と会話をを楽しむのもいいかも。世間
で認知されている「大阪商人」とは一味違
います。

大阪学

大谷晃一

(新潮社)

読みたい場所 大阪城から清水谷を通り空堀商店街まで歩きながら、窓の木欄前や直木三十五記念館の中で 29 『城塞』 司馬遼太郎 (新潮文庫)



六波羅雅一さん 六波羅真建築研究室 代表 からぼり倶楽部 代表理事

■「城塞」のなかでは、大坂冬の陣から夏の陣の間の春には、真田幸村が敵である親族たちと出会っており、仮の平和を前にした人間像がうかがえる。著者である司馬遼太郎氏は大阪在住の直木賞作家でもあり、「城塞」はその舞台に空堀も出てくる歴史小説である。400年後のその場所で、400年前の人々に思いを馳せてみたい。



読みたい場所 桃谷公園のクスノキの下で 中央区上本町西2丁目



31 『つづり方兄妹』 野上丹治・今井弓子 (理論社)

白石喜啓さん 自営業



■寝屋川のほうで暮らしていた貧しい三人兄妹が、作文コンクールなどに応募しながら、つらい日常の中にも楽しみを見出し、懸命に生きていくというストーリーでした。みんな貧しくとも元気に暮らしていた時代に重なる本でしたが、世相が暗くなってきた今、読み返してみれば新たな発見がきっとありそうです。通っていた小学校跡の公園の、子どもの頃からあるクスノキの側で、もう一度読んでみたいですね。

読みたい場所 空清町公園の木の上 天王寺区上本町3丁目 33



T.Y.さん 小学6年生



『犬と私の10の約束』 サイトウ アカリ (毎日新聞社)

■犬が大好きで、映画を見て大変感動し、興味を持ったので本を買い、何度も読みました。小さい頃からよく遊んでいる空清町公園の木の上で読んだら、とても気持ちがよいだろうなと思いました。

35 詩集「祈り」 山尾三省 (野草社) 読みたい場所 旧真田山陸軍墓地 天王寺区玉造本町

■春とくれば、桜。桜とくれば、死者。叱られるかもしれませんが、

私には春の桜は死者からの呼びかけ声のように聞こえます。「祈り」は山尾の遺詩集ですが、迫った死を想いつつ、一方で呼吸しつづける生の確かさを痛切に感じます。上町台地は死者の国。この場所は、その冷厳なる事実を都市の地表にあらわしています。



秋田光彦さん 大蓮寺・應典院 住職

読みたい場所 book&cafe LOW 30 『不思議の国のアリス』 ルイス・キャロル (岩波書店ほか)

奥野素子さん book & cafe LOW



■空堀のまちの古い民家の2階に、隠れ家のような小さなカフェ“LOW”があります。不思議の国に迷い込んだアリスのように、扉を開けると…。窓辺にはアリスの国のフィギアたち！春のうららかな陽が差す部屋で“不思議の国のアリス”を読みながらタイムスリップの旅に。5月7日はアリスのモデルとなった実在の少女アリス・リデルの誕生日です。遠い日のアリスに思いを馳せて、本のページをめくるのも素敵！



32 『谷川俊太郎詩集 いまばくに (詩と歩こう)』 谷川俊太郎 (理論社) 読みたい場所 空堀 桃谷公園のベンチ 中央区上本町西2丁目



渡辺尚見さん からぼりまちアートスタッフ



■もう一度読みたい本って何だろうと考えました。そこで浮かんできたのがこの詩集です。いい詩は何度読んでも飽きないし、この本は、表紙や時折出てくる挿絵がきれいなので。春なので、外で読書がしたかったので公園を選びました。ぽかぽか陽気の中で、まちの音を感じながら、詩のことばをひとつずつたどっていく—ことができたらいいなと思いました。

読みたい場所 空清町にある自分の家 天王寺区空清町 34 『日本の歴史』 まんがで学習 小和田哲男監修 (成美堂出版)



山田将太郎さん 小学4年生



■僕は大阪城の近くで生まれ育ちました。今、小学校の社会科の授業で歴史を習っています。歴史上の人物に興味があり、昔、この近くで起きた出来事を、自分の部屋で誰にも邪魔されず、昔を想像しながら読んでみたいです。

36 『図説大阪府の歴史』 津田秀夫編 (河出書房新社) 読みたい場所 真田山公園界限 天王寺区玉造本町・真田山町



角田昭弘さん 清西振興町会長



■大阪にもワニがいた、から始まり、千里ニュータウンの大プロジェクトまで、大阪について詳しく書かれているが、私の本箱に何故あるのかははっきりしない。以前よりゆっくり読んでみたいと思っていた。真田山公園界限は、私が子どもの頃、毎日学校が終われば野球をしたり、友達と遊んだ場所であり、真田幸村が作った(?)大阪城への抜け穴(?)らしきものがあり、のんびりできるなつかしい場所である。

読みたい場所 真田山公園 37 『さいりいは ちようちょ』 五味太郎 (偕成社)



木村 薫さん 大阪市立真田山幼稚園 園長

■春の日に…といえば、黄色い蝶が飛んでくしかけ絵本が頭に浮かびました。真田山公園の春は、桜やたんぽぽが咲きます。そこへ、蝶も飛んできます。でも、絵本の中の黄色い蝶は、あれ？あれ！と、ページをめくるたびに、意外な展開に。子どもさんのいる方は、春の陽ざしの中で「なんで?」「どうなってるの?」と一緒に不思議がり、楽しめます。大人でも、なるほどなあ、こういうことになっているのか…とページとページのつながりに感心させられます。春の陽のように明るい気持ちになれる絵本です。

39 『鏝絵放浪記』 (こてえほうろうき) 藤田洋三 (石風社) 読みたい場所 高津神社境内 中央区高津1丁目



酒井一光さん 大阪歴史博物館学芸員



■鏝絵 (こてえ) とは、左官が鏝を用いて壁や天井にレリーフ状の絵を描いたもの。誰も見向きもしなかった職人の密かな腕自慢を丹念に追跡し、光をあてたのが大分の藤田洋三さんである。野にひっそりと咲いたような鏝絵は、大阪にはないと思い込んでいたが、ここ上町台地には静かに息づいているかもしれない。本書に大阪の例は載っていないが、いつしか藤田さんと高津神社や下寺町を歩き、左官職人の活躍した上町台地に光をあててみたい。

読みたい場所 いくたまさん 西側芝生のベンチあたりで 天王寺区生玉町 41 『春琴抄』 谷崎潤一郎 (新潮文庫)



中村文隆さん 生國魂神社・神主

■春の日と上町台地というフレーズから、自然と『春琴抄』が頭に浮かんだ。作品冒頭の“生國魂神社のある高台…”にある盲目の女三味線師“春琴”とその弟子“佐助”の墓前から谷崎文学のひとつの頂点としての本作が始まる。そもそも東京生まれ東京育ちの谷崎は西欧的なスタイルを指向したが、関東大震災を機に関西に移り住み、次第に純日本的な言葉を用いた美しい文体を確立する。ぜひ、リアルな場所 (いくたまさん) で春風に吹かれながら、春琴と佐助の深い愛を見届けてください。

43 『三国志』 吉川英治作品 ほか 読みたい場所 シェラトン都ホテル 最上階スイートルーム 天王寺区上本町6丁目



森 茂樹さん 天王寺区保健福祉センター 担当係長



■映画「レッドクリフ」が公開され、以前から一度は読んでみたいと思いながらも長すぎてなかなか挑戦できていない「三国志」を、誰にも邪魔されことなく、じっくりと時間をかけて読む事ができたらなあと思いました。で、誰にも邪魔されことなくゆっくりと時間を過ごせるのはホテルの部屋かな。上町台地でホテルと言えば「シェラトン都ホテル」。いっそのこと、最上階のスイートルームで、窓から上町台地の景色を眺めながら、中国の壮大な戦国絵巻に夢をさせるのもいいかと…もちろん、どちらも実現はなかなか難しいと思いますが…

読みたい場所 高津神社 境内と公園 中央区高津1丁目 38 昔のマンガ月刊雑誌



宮崎昌久さん 復興小売商

■物心ついた頃、巷では月刊漫画雑誌という、厚紙をくりぬいて自動車やロボットを作ったり、本誌に掲載されている漫画の続編が別冊小本としてオマケになっているような雑誌が流行していました。「少年」、「少年画報」、「はくら」、「漫画王」、「冒險王」などでした。こういう雑誌は古本屋に行っても置いてなくて……。友達同士で交換して読みあさっていた半世紀前のあの頃にタイムスリップして、今ほど殺伐としていない世間に戻りたいなあ。

40 『アルケミスト 夢を旅した少年』 パウロ・コエーリョ (角川文庫・地湧社) 読みたい場所 東高津公園のベンチ 天王寺区東高津町



小田由布子さん 教師



■この本は少年が旅をしながら自分の人生について考えていくものです。人を信じる自分、人に裏切られ疑う心を持ってしまう自分、人を好きになる自分など様々な自分を発見していきます。そして、旅の途中に出てくる様々な選択肢について、一つ一つ解決していくうちに自分の生き方を見出していくという人生本です。いつも通勤時にこの公園の近くを通りますが、晴れているときは特に広々とした公園に子どもたちの無邪気な声や鳥の声が心地よく響きます。この素敵な空間で午後のひと時をゆっくり過ごしたいです。

読みたい場所 應典院2F気づきの広場 天王寺区下寺町1丁目 42 『やさしさの精神病理』 大平健 (岩波新書)



山口洋典さん 浄土宗應典院主幹・ 應典院寺町倶楽部事務局長・ 上町台地からまちを考える会事務局長

■学生時代、職員の方に紹介いただいた本です。阪神・淡路大震災のボランティア活動が一段落し、季節は秋に向かっていた頃と思います。「なぜ人と関わっていくと相手を傷つけてしまうんだろう」と悩んでいたのも、本文中の「やさしくないやさしさ」などの言葉で、自分自身を見つめ直したことをよく覚えています。ボランティア元年の出版ですが、他者との関係に悩む方は墓場を見下ろすお寺のロビーにて物静かに読みふけてはどうでしょう。

44 『海の日曜日』 今江祥智作 宇野亜喜良絵 (実業・友社) 読みたい場所 上汐町公園 上の段のベンチがすり鉢状の滑り台の上 天王寺区上汐4丁目



中越慈子さん 夕陽丘ストリート界限の住人



■中学の頃、興味を持っていた宇野亜喜良さん挿絵の本を図書室で見つけ、手に取りました。それがこの本との出会い。そして著者の今江祥智さんの大阪弁口調の文体にのめり込んでしまいました。それがきっかけで児童文学や絵本に興味を持つようになった「始まりの本」というわけです。読書の場所は「海の日曜日」の感じにあったノスタルジックでのんびりしたところということで、古いままあまり変わっていない場所を選びました。この公園は、中学の頃のデート・コース、子育ての公園デビューの場でもあり、春は満開の桜の下で読書も楽しめます。

読みたい場所

大阪国際交流センター
天王寺区上本町8丁目

45

「日本文学は世界のかけ橋」
ドナルド・キーン
(たちばな出版)

坂本峰徳さん
四天王寺一音院住職

■大阪国際交流センターは私が子どもの頃、大阪外国語大学であった。親戚が学生向けの下宿をしていたこともあり、エキセントリックな学生たちや外国人留学生は身近な存在で、幼いなりに少なからぬ刺激を受けた。跡地が国際交流の場となり、過日の思い出と重なるのは出来すぎの感もある。お勤めの書は、米国人であるドナルド・キーン先生の中国は杭州大学での講演録を中国人の王勇先生が編集し、日本で出版したという何とも回りくどい本である。しかし、大変読みやすく門外漢にも分かりやすい名著となっているところが、私の交流センターに抱く感情と重なる。

読みたい場所

安吾新日本地理
坂口安吾
(ちくま文庫・河出文庫ほか)

47

「安吾新日本地理」
坂口安吾
(ちくま文庫・河出文庫ほか)

御幸森天神宮
生野コリアタウン西入口
生野区桃谷3丁目

■大学生の頃、私のルーツである朝鮮と私が住んでいる日本との古代の結びつきを、驚くべき洞察力と率直さで描いていることに感動しました。私が生まれ育った旧「猪飼野」に位置する御幸森天神宮にも、この一帯が百済から先進文明を持って渡来した人々によって開拓されたことが揭示されています。静かな境内で古代の朝・日関係に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

読みたい場所

愛染堂勝鬘院
本堂裏のベンチで、多宝塔を眺めながら
天王寺区夕陽丘町

49

「伯林——ハハハ」
海渡英祐
(講談社文庫)

山岡武明さん
愛染堂・住職

■「私が女子高生の頃に読んだ本が出てきたの。読んでみる？」と差し出された1冊です。日本文学史に必ず出てくる森鴎外とドイツのビスマルク首相を中心とした有名人物たちを登場させている推理小説で、壮大な内容でした。

広々とした境内で、しかも重要文化財の多宝塔を眺め、歴史に思いを馳せながら読むのは、とても清々しい気分です。読後の満足感も倍增です。

読みたい場所

動物園にできること
川端裕人
(文春文庫)

51

「動物園にできること」
川端裕人
(文春文庫)

高見一利さん
大阪市天王寺動物園 担当係長
(獣医師)

■野生動物の絶滅が危ぶまれる時流の中で、開園からまもなく100年になるうかという歴史を持ちつつ新しい考え方を取り入れて野生動物との共存を訴える動物園の中で、そんな動物園の取り組みを紹介する本を読めば、テレビや絵本の中の登場人物でしかなかった野生動物が身近なものになるでしょう。

読みたい場所

子どもの頃遊んだ急傾斜の階段の上

46

「車輪の下」
ヘルマン・ヘッセ
(新潮文庫ほか)

富士原純一さん
御富士原文信堂 代表取締役

■私が高校生だった頃、男の自分のなかに少女のような純真さを感じていた。そのときに手にした一冊の文庫本。名作リストのなかに必ず登場する「車輪の下」だった。それまで読んできた児童文学とはまったく違う世界を体感し、純真な心のなかにせつなさをこの小説から感じたものだ。ここは子どものときによく遊んだ場所で、この急な階段には恐怖とすごいなあとと感心した記憶がある。子どもの心のなかに純真さを持っていたあの頃である。

読みたい場所

「流れる千年」
韓茶cafe
生野区桃谷4丁目

48

「ふたつの故郷
津軽の空・星州の風」
朴才燮 (藤原書店)

宋 悟さん
(株)コリアNGOセンター 代表理事

■本書は「在日」2世の女性として自らの歩んできた人生を振り返りながら、日常の些細な事柄や季節の移ろいを繊細で流麗な筆致で描いた随筆だ。またフェミニスト・カウンセラーとして、数々の人間関係の修羅場を聴き続けてきた著者の内に秘めた自由への「激しさ」が、時折溢れ出す。「流れる千年」のお洒落なカウンターに座り、本格的な韓国伝統茶を味わいながら本書を読めば、時空を越えた異文化の深さを実感できるだろう。

読みたい場所

天王寺蕪の発祥地
四天王寺界限
天王寺区四天王寺

50

「なにわ大阪の伝統野菜」
なにわ特産物食文化研究会 (農文協)

森下正博さん
なにわ伝統野菜応援団員

■昔から、大阪は食い道楽の街として栄えてきましたが、その人々の食を支えた、野菜の名産地が大阪市内に点在し、そのうちで天王寺蕪は四天王寺の界限から南にかけての畑場が発祥の地でありました。現在では、住宅が建ち並び、畑など想像できないわけですが、明治の終わり頃までは、十分農地があり、蕪、大根や綿の栽培が盛んでありました。大阪にかかわるその他22種類の野菜の歴史や特徴なども読み知ることができます。

読みたい場所

天王寺公園
天王寺区茶臼山町

52

「兄弟のやまばと」
「小川未明童話集」より
小川未明
(新潮文庫)

市川久雄さん
天王寺動物園事務所 担当係長

■公園にはたくさんのハトがいます。彼らは都会のハトです。物語のやまばとと兄弟は、ある日都会のハトに出会い、都会ではハトは人間に守られ人間によっておいしいエサを貰っていると兄弟に話します。彼らは、母親から人間はハトを見ると鉄砲を撃つこわい生き物と教えられていたので、びっくりします。そして、母親に内緒で都会に行きます。半月ほど経ったある日、兄弟のハトは、傷を負い、疲れ果て帰ってきました。都会で何があったのでしょうか？…公園のハトの中にもこのように都会のハトに誘われて来たハトもいるのではないのでしょうか？

春の日
上町台地で
読みたい本と
読みたい場所マップ

春の上町台地
あの人の「本」とお散歩&トーク
詩人の上田假奈代さんと本を持ってまち歩き

U-CoRoから空堀界隈をめぐり、
商店街、練から桃園公園へ

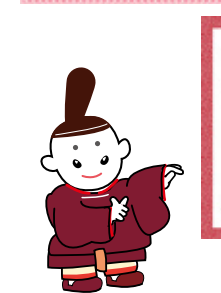
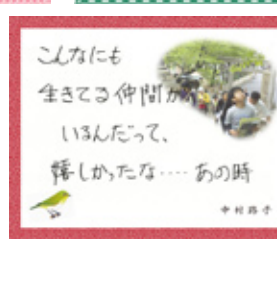
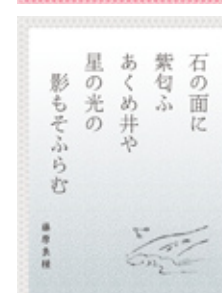
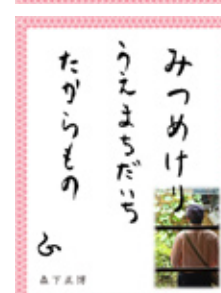
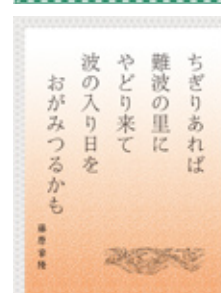
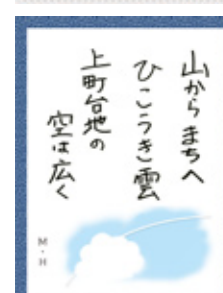
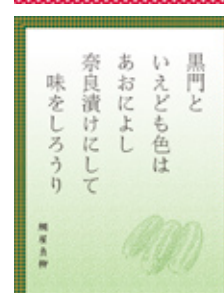
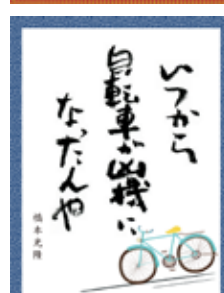
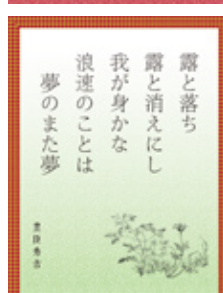
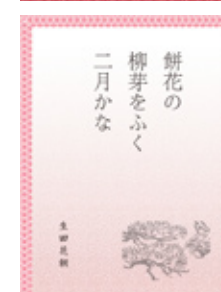
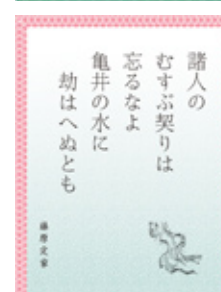
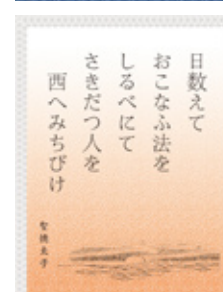
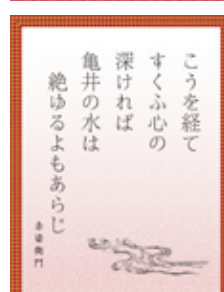
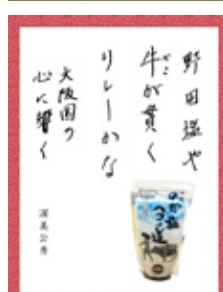
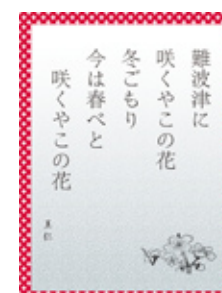
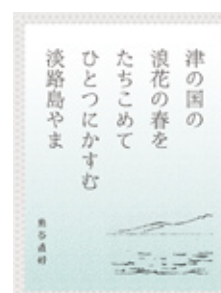
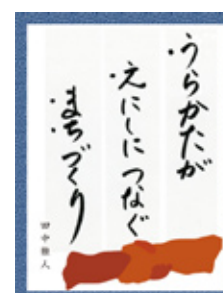
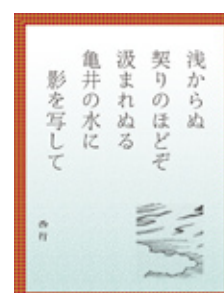
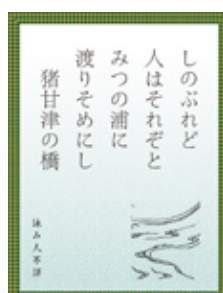
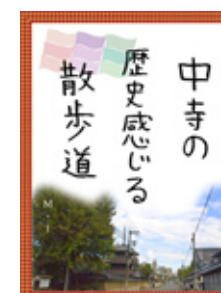
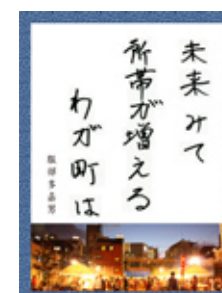
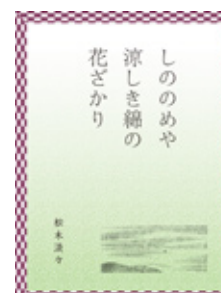
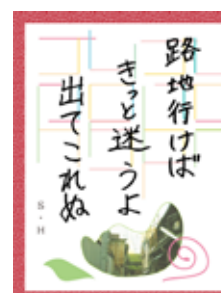
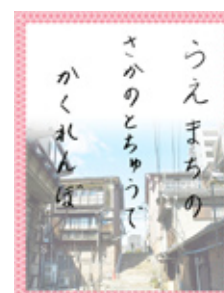
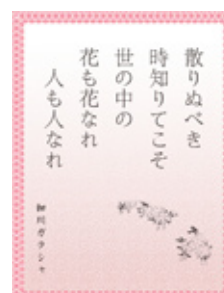
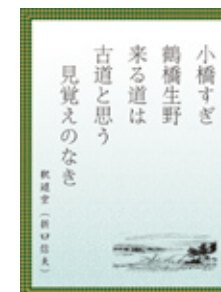
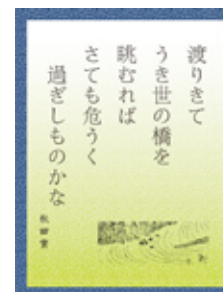
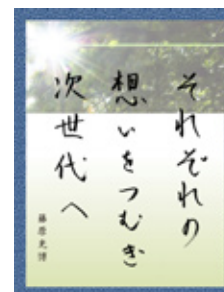
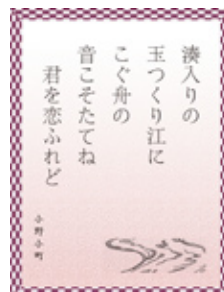
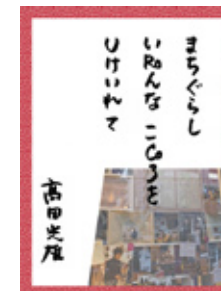
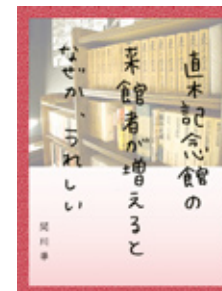
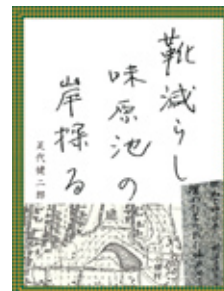
お気に入りの本を手に、
おすすめの場所を歩き、
それぞれの人の心の風景をたどりました。

2009.4.25

お散歩中

読みたい本00の読みたい場所00

●書店等 ●古書店・古本市
●ブックカフェ等
●ライブラリー・出版社・文学団体



続いていく つながりの物語

2007年春のスタート以来、U-CoRoプロジェクトは、上町台地境界に生きるたくさんの物語を紹介してきました。ウィンドウ展示を中心にして交流イベントやワークショップなどを通して紡がれてきた一つ一つの物語は、地域の方々とのかけがえのない出会いから育まれていったものばかり。それらのつながりの物語は、これからもさらに続いていくことでしょう。

★ 宮城県七ヶ浜町・きずな館



(特活)レスキューストックヤード(代表理事・栗田暢之さん)は、東日本大震災の被災地支援のために宮城県七ヶ浜町に入り、「きずな館」を拠点として活動中。

U-CoRo が結んだ縁

栗田暢之
(特活)レスキューストックヤード代表理事)

「上町喫茶のコーヒー、深い味わいでおいしかったわ」と七ヶ浜の被災者はしっかり覚えています。それまでは縁もゆかりもなかった大阪と七ヶ浜と名古屋をつなげたのが、まさにU-CoRoでした。この縁結びにまずは感謝の気持ちでいっぱいですが、でも展示や企画がそうさせたのではなく、それに関わった「人のつながり」と「共通の想い」があったこと。しかも一過性ではなく、数年にわたってのお付き合い。文字通り深い味わいの賜物だと、重ねて感謝しております。

減災の智恵を活かし合う 関係づくり

★ 岩手県 野田村 ・チーム 北リアス



(特活)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長の渥美公秀大阪大学大学院教授らは、東日本大震災で被災した岩手県の北リアス地域を長期的に支援するネットワークを結成し活動を展開。

岩手県野田村との絆

渥美公秀
(特活)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長、
大阪大学大学院人間科学研究科教授)

東日本大震災。阪神・淡路大震災の時に西宮の子どもたちを助けてくださった青森県八戸市から、岩手県野田村へ。あまりに厳しい現状に言葉を失いました。でも、そこに数々の出会いがありました。上町台地の皆様は、野田村までお越しください、野田村の方々顔の見える関係を築いてこられました。これからも、上町台地の皆様をはじめ全国の皆様からのご支援に感謝しつつ、野田村の皆様との絆を大切にして、長期にわたる復興支援活動を展開していきたいと思っております。

減災 つながり

2007年『いのちをまもる智恵～減災に挑む30の風景』の紹介、2008年の減災ゲーム「クロスロード」の活用で、上町台地に蒔かれた減災の種。地域の人と減災の専門家のつながりは2009年「減災キャラバンon上町台地」などに。2010年には、身近な避難所を通して地域防災の担い手との交流も。上町台地境界のあちこちで減災文化の芽を育み合ってきました。今、東日本大震災の被災地と、上町台地の交流も始まっています。

職人 つながり

2011年「上町台地 まちなかのプロフェッショナル」の展示では、丁寧に手をかけたものを介して、人や地域とのつながりを大切に、暮らしによりそうまちなかの生業を探访。上町台地に積み重ねられてきた、多彩な手仕事・ものづくり・商いの担い手との出会いは、連携する「上町台地・職人研(丸善ボタン)」の活動をはじめ、職人さんとのジャンルを越えたコラボレーションを誘発。暮らしを彩る新たなものづくりが花開き始めています。

囲炉裏のガス火に縁を託す

吉村健一 (南)旭進ガス器製作所)

U-CoRoのご縁もあって、NEXT21の改修住戸用にガスの囲炉裏をつくりました。たき火や囲炉裏など火を囲む習慣には、人をつなぐ役割もありました。みんなで身体を温めあい、一緒においしい料理を食べれば、疲れもほぐれ、会話が弾みはります。この囲炉裏にはそんな願いも込めさせてもらいました。まちなかのマンションでつながりの試みをつくる。ものづくりに関わり続けていたことで、まちづくりの新たな挑戦もさせてもらえました。



★ 丸善ボタン(株) (大阪市中央区)

上町台地・職人研を展開する丸善ボタンの岸本知子さん。ギャラリーでの恒例演奏会と同時に職人展を開催。

職人さんとの 住まい・まちづくり

高田光雄 (京都大学大学院工学研究科教授)

大阪は、商いのまちであるとともにものづくりのまちでもあります。都心居住の魅力の一つは、まちで「こさえた」ものとの関わりをもつこと。まちなかには、こんなええところがある町に住む喜びや誇りとともに、こんなええもんが産まれるまちに住む喜びや誇りがあります。もう一つは、それらを「こさえた」人との関わりをもつこと。職人さんとそのつながりはまちの大きな財産です。これからの上町台地境界で、いろいろな住まい手と職人さんとの住まい・まちづくりの展開に大いに期待しています。

★ 旭進ガス器製作所 (大阪市生野区)



自社技術の解説をする旭進ガス器製作所の吉村健一さん。京都大学大学院の高田光雄教授が設計に携わったNEXT21の改修住戸で使われるガス囲炉裏の制作を手がけた。

暮らしと ものづくりの縁結び

ものづくりと まちづくりのリレーをこれからも

岸本知子 (丸善ボタン株式会社)

U-CoRoや弊社プロジェクトのなかで、大阪のさまざまな職人さんにお会いすることができました。それぞれの職人さんは、一つの職能について長年磨きをかけていらっしゃるだけではなく、時代によって移り変わるお客様の要望、事業の展望からまちの活性化策、日本の将来などについて、日々考え、新しいアイデアを生み、試してみるというエネルギーが満タンで、その魅力をぜひ、次の世代へも引き継いでいければと思っています。

※それぞれのコメントは2011年10月時点のもの。肩書、所属等は当時のものです。

玉造黒門 しろり 越瓜 つながり

NEXT21の近隣に広がる玉造界隈は、なにわ伝統野菜のひとつ玉造黒門越瓜のふるさとです。2008年「上町台地となにわ伝統野菜物語」の展示に合わせ、玉造稲荷神社・玉造黒門越瓜出隊と共催で始めた「玉造黒門越瓜栽培“ツルつなぎ”プロジェクト」。栽培を通して年々人の輪が広がり、上町台地界隈にひとつまたひとつと越瓜が芽吹き、園庭や校庭に、境内に、お店や住宅の軒下や店先に、たくさんの会話と物語を届けてくれています。

地野菜の栽培プロジェクトの広がり

★玉造稲荷神社 (大阪市中央区)

越瓜の普及に努める玉造稲荷神社の鈴木伸廣さんとマスコットキャラクターの“玉造稲荷くろもんちゃん”。



玉造黒門越瓜栽培 “ツルつなぎ”プロジェクトと U-CoRo

鈴木伸廣 (玉造稲荷神社 ねざ)

「玉造黒門越瓜栽培“ツルつなぎ”プロジェクト」も4年目のシーズンが過ぎました。毎年、栽培場所や時期は同じでも出来が違う“伝統野菜”ならではの感動があったと思います。また、自然に感謝する年もあれば、その脅威を感じる年もあったのではないのでしょうか。昔の上町人もこのような感動を共有し、災害時にはタネを分け合うなどの努力で、越瓜が伝統野菜として残ってきたのかもしれません。天候を含め世の中が大きく変動するなか、収穫の増減にかかわらず、栽培者のつながりは確実に増えていることに感謝いたします。

★ デイサービスセンター 陽だまり (大阪市中央区)



「陽だまり」の早川靖枝さんは越瓜育て“名人”。中庭で収穫した越瓜は毎年利用者の方とともに賞味する。

玉造黒門越瓜と出会う

早川靖枝 (デイサービスセンター陽だまり)

初めての種まきは2009年の春。間引き、摘芯、受粉と大奮闘の末、5個を収穫。昨年はその経験を生かして、楽勝の5個(笑)。ところが今年は、わずかに3本の発芽のうえに、成長もままならず。雄花ばかりで雌花はチラホラ。「何を甘えとるんや!」とハサミ片手に「サルカニ合戦」の蟹よろしく、にらみを利かせて叱咤の日々。よほど怖かったのか(笑)、7月末にやっと1キロ余りの巨大児誕生後、大小取り混ぜ6個も生まれました。小さな庭の一隅は、優しい陽の光と風の恵みの「陽だまり」。来年への夢つなぎ、そしてツルつなぎ……。

上町台地の明日を想う 百人一首を味わう集い

event & workshop

上町台地で言葉の世界に深く関わっておいでのお三方をゲストに、U-CoRo百人一句を詠んで・聴いて味わい、ともに上町台地の明日に思いを馳せました。



ゲスト：高口恭行さん (一心寺長老)
塙 狼星さん (空堀ことは塾主宰)
上田假奈代さん (詩人、NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココロム)代表)

開催日：2012年3月17日 / 会場：NEXT21 ホール
主催：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 (CEL)

※肩書、所属等はイベント開催当時のものです。 2012.3.17